

高校家庭科の高齢者介護問題に関する ロールプレイ教材の学習効果

山本 圭郎*・山野 京子**・入江 和夫

Learning Effects of the Role Playing with Teaching Materials on Problems in Nursing Care
for Elderly People in the Senior High School Home Economics

YAMAMOTO Yoshiro*・YAMANO Kyoko**・IRIE Kazuo

(Received January 15, 2008)

キーワード：ロールプレイ、学習効果、高齢者介護、ゆとりある介護

はじめに

超高齢社会を迎えるに当たって、高齢者に関する学習は重要である。しかし、その学習は高校生にとって身近な問題としては捉えにくく、高齢者に関する過去の事例においてもそのような事例は未だ報告されていなかった。このようなことから、高齢者介護問題を具体的に高校生が身近な問題として捉えられるような指導案、教材を作成し、授業実践を行った。前報¹⁾²⁾では「高齢者介護の問題点に気づかせ、よりよい介護の方法について理解させる」を主眼とした指導案・教材について述べ、それらに基づいて高校生にロールプレイのシナリオ作成、実践を行った。主眼の「よりよい介護」とは「ゆとりある介護」であり、それは「家族の協力」、「家事技能」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」、「家族への気遣い」、「家族間のコミュニケーション」、「介護サービスの利用」から成る。

そこで、これらの項目に関して授業後の変化を確かめることにした。また、家庭科が高齢社会に役立つこと、また高齢者に関する学習は今後も継続して興味関心を持たせることが重要であることから、これらの項目の変化も確かめることにした。詳細には平均値比較、相関関係、重回帰分析による因果関係によって明らかにしていく。また、授業後、生徒はこの授業をどのように捉えているかを明らかにするため、自由記述による授業評価を行い、それを「知識理解」、「情意」、「意欲」の観点から分析した。それらを報告するとともに、今後の高齢者介護問題に対応する家庭科教育のあり方から一考する。

*山口大学大学院教育学研究科院生 **山口県立青嶺・美祿工業高等学校教諭

1. 方法

- 1 対象生徒 美祢市立青嶺・美祢工業高校1年生(43人)
- 2 授業実践日 2007年10月4日(2時間)、18日(2時間)

2. 結果及び考察

2-1 プレテスト

授業実践前に生徒の実態を把握するために高齢者に関する学習観、家庭科観、介護観についてプレテストを行った。各設問の平均値と設問間の比較を表1に示し、相関関係を表2に示した。また、設問項目から4項目を抽出し、その因果関係を重回帰分析で調べたので順次それらの結果を述べていく。

【1】 平均値

各設問における高校生の平均値及び男女別の平均値の比較を一元配置分散分析によって行った。表1に結果を示す。

	性別	N	平均値 (男女別)	平均値	順位	有意確立 (両側)	項目間の 有意差
Q10介護で家族が協力することの大切さよ(授業前)	男子	24	3.25	3.36	1	n.s	9
	女子	18	3.50				
Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性よ(授業前)☆	男子	25	3.28	3.28	2	n.s	11
	女子	18	3.28				
Q6介護する場合の不安感がありますか(授業前)☆	男子	25	3.04	3.16	3	n.s	11
	女子	18	3.33				
Q14介護における家族間のコミュニケーションの必要性よ(授業前)	男子	24	3.00	3.12	4	n.s	11
	女子	18	3.28				
Q7介護をできるだけ長く続けられるような方法は重要ですか(授業前)	男子	25	3.04	3.09	5	n.s	11
	女子	18	3.17				
Q11介護に衣食住などの家事技能が必要だと思いますか(授業前)	男子	24	2.88	3.02	6	n.s	11
	女子	18	3.22				
Q12介護で家族間での気遣いに必要性よ(授業前)	男子	24	2.71	2.93	7	*	12
	女子	18	3.22				
Q3家庭科の学習内容は高齢社会に役立つと思いますか(授業前)	男子	25	2.72	2.86	8	n.s	12
	女子	18	3.06				
Q15介護サービスを利用することは(授業前)	男子	24	2.67	2.86	9	*	12
	女子	18	3.11				
Q13介護における生活時間の調整の必要性よ(授業前)	男子	24	2.71	2.83	10	n.s	12
	女子	16	3.00				
Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性よ(授業前)☆	男子	24	2.88	2.81	11	n.s	12
	女子	18	2.72				
Q8介護を家族だけですることは大切だと思いますか(授業前)	男子	25	2.60	2.49	12	n.s	14
	女子	18	2.33				
Q2高齢者について学習する意欲はありますか(授業前)	男子	25	2.16	2.26	13	n.s	
	女子	18	2.39				
Q1高齢者に関する学習に興味・関心はありますか(授業前)	男子	25	2.00	2.16	14	n.s	
	女子	18	2.39				
Q9介護は女性だけがするものだと思いますか(授業前)	男子	24	1.83	1.74	15	n.s	
	女子	18	1.61				

☆:逆転項目 *: $p<0.05$

表1: プレテストの平均値の比較

【1】-1 高校生全体

平均値について注目する。平均点の高い項目は、第1位 Q10「介護で家族が協力するこ

との大切さ」、第2位 Q4「家庭科の衣食住に関する学習の重要性」、第3位 Q6「介護の不安感」、第4位 Q14「家族のコミュニケーションの重要性」であった。平均点の低い項目は、第14位が Q9「介護は女性だけがするもの」、第13位が Q1「高齢者に関する学習への興味・関心」、第12位が Q2「高齢者について学習する意欲」、第11位は Q8「介護を家族だけですることの大切さ」であった。このようなことから高校生は、家庭科の家族関係、衣食住の家事技能と介護についての家族の協力、不安感に大きな関心があるが、高齢者に関する学習への興味・関心、意欲に関しては低いことがわかった。

【1】-2 男女別

男女でどのような違いがあるのかを見ていくことにする。全質問項目の中で Q12「介護で家族間での気遣いの必要性」、Q15「介護サービス利用の必要性」については、女子の方が高かった。これは、自分が主たる介護者になることを意識しているためではないかと考えられる。以上のことから、授業を構想するに際して高齢者に関する学習への興味・関心、意欲を高める必要性があり、男子については家族間の気遣い、介護サービス利用の必要性を積極的に考えさせる工夫が必要であると考えられる。

【2】 相関関係

相関関係について、全設問項目を調べた。結果を表2に示し、以下に述べる。

ブレ	Q1高齢者に関する学習への興味・関心はありますか(授業前)	Q2高齢者について学習する意欲はありますか(授業前)	Q3家庭科の学習内容が興味・関心はありますか(授業前)	Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性はありますか(授業前)	Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性はありますか(授業前)	Q6介護する機会が長くなることは大抵の人は家でやるべきか(授業前)	Q7介護を家族だけでやることは大切か(授業前)	Q8介護は女性だけがするものか(授業前)	Q9介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q10介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q11介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q12介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q13介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q14介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Q15介護サービス利用の必要性はありますか(授業前)	
Q1高齢者に関する学習への興味・関心はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.542(**) 0 43	0.410(**) 0.006 43	0.193 0.215 43	0.175 0.266 43	0.093 0.595 43	0.245 0.113 43	0.082 0.695 43	-0.021 0.852 43	0.319(*) 0.059 42	0.109 0.493 42	0.276 0.078 42	0.271 0.091 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	
Q2高齢者について学習する意欲はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.542(**) 0 43	0.245 0.113 43	0.147 0.346 43	0.206 0.19 43	-0.094 0.591 43	-0.001 0.949 43	-0.072 0.957 43	-0.009 0.705 42	0.06 0.921 42	-0.016 0.557 42	0.093 0.333 42	0.187 0.333 42	-0.076 0.602 42	0.081 0.608 42	
Q3家庭科の学習内容が興味・関心はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.410(**) 0.006 43	0.245 0.113 43	0.147 0.346 43	0.117 0.455 43	0.156 0.324 43	0.206 0.187 43	0.236 0.128 43	0.082 0.26 42	0.179 0.309 42	-0.161 0.009 42	0.219 0.164 42	0.482(**) 0.001 42	0.095 0.558 42	0.188 0.232 42	0.057 0.542 42
Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.193 0.215 43	0.147 0.346 43	0.117 0.456 43	0.117 0.456 43	0.169 0.286 42	0.078 0.619 43	0.234 0.131 43	0.082 0.746 43	0.279 0.074 42	0.432(**) 0.004 42	0.076 0.632 42	0.267 0.096 42	0.271 0.084 42	0.267 0.018 42	0.363(*) 0.018 42
Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.175 0.266 42	0.147 0.324 42	0.156 0.256 42	0.159 0.159 42	0.169 0.286 42	0.078 0.619 42	0.234 0.131 42	0.082 0.746 42	0.279 0.074 42	0.432(**) 0.004 42	0.076 0.632 42	0.267 0.096 42	0.271 0.084 42	0.267 0.018 42	0.363(*) 0.018 42
Q6介護する機会が長くなることは大抵の人は家でやるべきか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.093 0.595 43	0.113 0.346 43	0.206 0.19 43	0.204 0.194 42	0.204 0.154 42	0.048 0.765 42	0.32(*) 0.03 43	0.142 0.363 43	-0.009 0.705 42	0.06 0.921 42	-0.016 0.557 42	0.093 0.333 42	0.187 0.333 42	-0.076 0.602 42	0.081 0.608 42
Q7介護を家族だけでやることは大切か(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.245 0.113 43	0.147 0.324 43	0.117 0.456 43	0.117 0.456 43	0.169 0.286 42	0.078 0.619 43	0.234 0.131 43	0.082 0.746 43	0.279 0.074 42	0.432(**) 0.004 42	0.076 0.632 42	0.267 0.096 42	0.271 0.084 42	0.267 0.018 42	0.363(*) 0.018 42
Q8介護は女性だけがするものか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.082 0.695 43	0.113 0.346 43	0.206 0.19 43	0.204 0.194 42	0.204 0.154 42	0.048 0.765 42	0.32(*) 0.03 43	0.142 0.363 43	-0.009 0.705 42	0.06 0.921 42	-0.016 0.557 42	0.093 0.333 42	0.187 0.333 42	-0.076 0.602 42	0.081 0.608 42
Q9介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	-0.021 0.852 43	0.113 0.346 43	0.206 0.19 43	0.204 0.194 42	0.204 0.154 42	0.048 0.765 42	0.32(*) 0.03 43	0.142 0.363 43	-0.009 0.705 42	0.06 0.921 42	-0.016 0.557 42	0.093 0.333 42	0.187 0.333 42	-0.076 0.602 42	0.081 0.608 42
Q10介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.319(*) 0.059 42	0.109 0.493 42	0.276 0.078 42	0.271 0.091 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42
Q11介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.109 0.493 42	0.276 0.078 42	0.271 0.091 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42
Q12介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.276 0.078 42	0.271 0.091 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42
Q13介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.271 0.091 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42
Q14介護で家族間での気遣いの必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42
Q15介護サービス利用の必要性はありますか(授業前)	Pearsonの相関係数 有意確率(両側) N	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42	0.298 0.056 42	0.244 0.12 42

*相関係数は5%水準で有意(両側)です。 **相関係数は1%水準で有意(両側)です。
☆:逆転項目

表2: 相関関係 (プレテスト)

Q1「高齢者に関する学習への興味・関心」は、Q2「高齢者について学習する意欲」、Q3「家庭科の学習内容は高齢社会に役立つ」、Q10「介護で家族が協力することの大切さ」に相関があった。Q3は、Q10、Q12「介護で家族間での気遣いの必要性」に相関があり、Q10は、Q7「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」、Q8「介護を家族だけすることは大切」、Q11「介護に衣食住などの家事技能の必要性」、Q12、Q13「介護における生活時間の調整の必要性」、Q14「介護における家族間コミュニケーションの必要性」と相関があった。

Q4「家庭科の衣食住に関する学習の重要性」は、Q11とQ15「介護サービス利用の必要性」に相関があった。Q11は、Q13、Q14、Q15「介護サービス利用の必要性」と相関があり、Q15は、Q11、Q12、Q13、Q14に相関があった。

Q6「介護の不安感」は、Q7、Q9「介護は女性だけがするもの」に相関があった。Q7は、Q8、Q11、Q14に相関があった。Q8は、Q11に相関があった。Q12は、Q13、Q14と相関があった。Q13は、Q14と相関があった。Q5「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」に関しては、相関関係が一つもなかった。

【3】 因果関係

①Q1「高齢者に関する学習への興味・関心」②Q6「介護の不安感」③Q7「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」④Q15「介護サービス利用の必要性」に関して、どのような項目が要因となっているのか重回帰分析を用いた。結果を以下に述べる。

①「高齢者に関する学習への興味・関心」について ($R^2=0.403$)

Q2「高齢者について学習する意欲」($\beta=0.550$, $p<0.001$)とQ10「介護で家族が協力することの大切さ」($\beta=0.286$, $p<0.05$)が要因となっており、学習意欲が高いほど、家族が協力する大切さを考えるほど①の興味・関心を高める要因となっていた。

②「介護の不安感」について ($R^2=0.110$)

Q7「介護をできるだけ長く続けられるような方法」($\beta=0.332$, $p<0.05$)を重要であると考えerほど②の不安感を高める要因となっていた。

③「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」について ($R^2=0.159$)

Q11「介護に衣食住などの家事技能」($\beta=0.399$, $p<0.05$)の必要性を考えるほど③の介護を長く続けられるような方法の重要性を高めていた。

④「介護サービス利用の必要性」について ($R^2=0.471$)

Q13「介護における生活時間の調整」($\beta=0.415$, $p<0.05$)とQ14「介護における家族間コミュニケーション」($\beta=0.415$, $p<0.05$)が要因となっており、生活時間の調整の必要性を考えるほど、家族間コミュニケーションの必要性を考えるほど、④の介護サービスを利用することの必要性を高めていた。

以上のことから高齢者に関する学習の興味・関心を高めるためには、高齢者について学習する意欲を喚起できるような教材、家族の協力を実感できる教材の工夫が必要であることがわかった。また、家庭科の衣食住の家事技能を介護にリンクさせる重要性、円滑な介護サービスの利用に生活時間の調整の必要性、介護者・介護される高齢者との家族間コミュニケーションの必要性を理解させるような工夫が必要であるということがわかった。

2-2 ポストテストとの比較

プレとポストテストとの比較を行い、授業目標の達成を確かめることにした。平均値の比較を表3に示し、ポストテストの相関関係を表4に示した。また、因果関係についても調べた。生徒の感想を表6に示し、順次それらの結果を述べていく。

【1】 平均値

各設問におけるプレテストとポストテストの平均値を一元配置分散分析によって比較した。プレテストでは、男女別に比較したが、今回は男女込みで比較をした。結果を表3に示し、以下に述べる。

	プレ&ポスト	N	平均値	t値	自由度	有意確立 (両側)	平均値の 順位	プレの 順位
Q1高齢者に関する学習に興味・関心はありますか	授業前	43	2.16	-5.787	83	***	11	14
	授業後	42	2.98					
Q2高齢者について学習する意欲はありますか	授業前	43	2.26	-5.756	83.562	***	10	13
	授業後	43	3.00					
Q3家庭科の学習内容は高齢社会に役立つと思いますか	授業前	43	2.86	-4.54	84	***	5	8
	授業後	43	3.53					
Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性は☆	授業前	43	3.28	-0.137	84	n.s	7	2
	授業後	43	3.30					
Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性は☆	授業前	42	2.81	-3.523	83	***	6	11
	授業後	43	3.40					
Q6介護する場合の不安感がありますか☆	授業前	43	3.16	-0.288	84	n.s	8	3
	授業後	43	3.21					
Q7介護をできるだけ長く続けられるような方法は重要ですか	授業前	43	3.09	-2.945	83	**	4	5
	授業後	42	3.55					
Q8介護を家族だけですることは大切だと思いますか	授業前	43	2.49	-2.013	84	*	12	12
	授業後	43	2.81					
Q9介護は女性だけがするものと思いますか	授業前	42	1.74	2.053	83	*	13	15
	授業後	43	1.44					
Q10介護で家族が協力することの大切さは	授業前	42	3.36	-3.38	71.624	***	1	1
	授業後	43	3.79					
Q11介護に衣食住などの家事技能が必要だと思いますか	授業前	42	3.02	-4.709	83	***	3	6
	授業後	43	3.63					
Q12介護で家族間での気遣いに必要性は	授業前	42	2.93	-3.775	83	***	5	7
	授業後	43	3.53					
Q13介護における生活時間の調整の必要性は	授業前	40	2.83	-6.227	81	***	2	10
	授業後	43	3.65					
Q14介護における家族間のコミュニケーションの必要性は	授業前	42	3.12	-3.823	83	***	2	4
	授業後	43	3.65					
Q15介護サービスを利用することは	授業前	42	2.86	-1.591	83	n.s	9	9
	授業後	43	3.09					

☆:逆転項目 *: $p<0.05$ ***: $p<0.001$

表3: プレ・ポストテストの比較

授業後に平均点が有意に高くなっていった項目数は12であった。Q1～5は、高齢者に関する学習観、家庭科観、介護観を大きくとらえた項目であり、Q6以下の上位項目と考えられる。そこで下位項目であるQ6～15を先に述べ、その後上位項目について述べていく。なお4段階評価となっているので、平均は2.5である。

Q6「介護の不安感」は、授業前では3.16で授業後では3.21となっており、授業前後で平均点に変化はなかったが、プレとポストの順位を相対的に見てみるとプレでは上位であったが、ポストでは下位になっていることがわかった。つまり、自分で劇のシナリオを作成することや実演すること、他班の劇を鑑賞することなどを通して、高齢者介護問題への解決に向けたさまざまな方法の必要性や重要性が、他の項目の平均値を上げたことがこの

ような結果につながったと考えられる。Q7「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」は、授業前から3.09と平均以上であったが、授業後には3.55となり、より重要であると考えようになった。Q8「介護を家族だけですることの大切さ」は、授業前では、2.49と平均を下回り、あまり大切ではないと考えていたが、授業後では2.5以上となり、介護を家族だけですることが大切であると考えように変化していた。家族全員の協力、介護サービスの利用などから、ゆとりある介護の必要性を学習したはずだったが、劇のシナリオ作りにおいて、介護サービスの利用ができないという制約などが家族で協力することによって介護を乗り切れるという印象を強くし、このような結果になったと考えられる。Q9「介護は女性だけがするもの」は、授業前から1.74と平均を下回っていたが、授業後には1.44となり、より女性だけで行うものではないと考えようになった。Q10「介護で家族が協力することの大切さ」は、授業前から3.36と平均以上であったが、授業後には3.79となり、より介護で家族が協力することの大切さが高まった。Q11「介護に衣食住など家事技能の必要性」は、授業前から3.02と平均以上であったが、授業後には3.63となり、家事技能の必要性が高まった。Q12「介護で家族間の気遣いの必要性」は、授業前から2.93と平均以上であったが、授業後には3.53となり、より気遣いの必要性が高まった。Q13「介護における生活時間の調整の必要性」は、授業前から2.83と平均以上であったが、授業後には3.65となり、より生活時間の調整の必要性が高まった。Q14「介護における家族間コミュニケーションの必要性」は、授業前から3.12と平均以上であったが、授業後には3.65となり、より家族間コミュニケーションの必要性が高まった。Q15「介護サービス利用の必要性」は、授業前から2.86と平均以上であったが、授業後には3.09となり、より介護サービス利用の必要性が高まった。以上のように下位項目のほとんどが有意に高まり、より必要性や重要性などを考えるように意識を変化させることができた。

次に上位項目について述べていく。Q1「高齢者に関する学習への興味関心」は、授業前では、2.16で平均を下回っていたのにも関わらず、授業後には2.98にまで上がり、興味・関心が高まった。Q2「高齢者について学習する意欲」は、授業前では、2.26で平均を下回っていたが、授業後には3にまで上がり、意欲が高まった。Q3「家庭科の学習は高齢社会に役立つ程度」は、授業前から2.86と平均以上であったが、授業後では3.53となり、より役立つと考えるようになった。Q4「家庭科の衣食住に関する学習の重要性」は、授業前では、3.28、授業後では、3.30となっており、生徒は授業前から衣食住の学習に関して重要性を考えていたので変化が見られなかったと考えられる。Q5「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」は、授業前では、2.81と平均以上であったが、授業後では、3.4となり、より重要であると考えようになった。

以上のことから、今回の授業実践によって、授業前に低かった高齢者に関する学習の興味・関心、意欲を高めることができ、家庭科の生活保持機能と精神的機能が高齢社会に役立つという意識を高めることができた。また、不安感についても減少させることができた。

【2】 相関関係

授業後の相関関係について、全設問項目を調べた。結果を表5に示し、上記の表2と比較し、以下に述べる。

		Q1高齢者に関する学習への興味・関心はありますか(授業後)	Q2高齢者について学習する意欲はありますか(授業後)	Q3家庭科の学習内容に役立ちたい程度はありますか(授業後)	Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性は(授業後)*	Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性は(授業後)*	Q6介護する際の不安感の強さは(授業後)*	Q7介護できるだけ長く続けられる方法を(授業後)	Q8介護を家族だけで済ませたい(授業後)	Q9介護する家族が負担が大きい(授業後)	Q10介護で家族が協力する大切さは(授業後)	Q11介護で衣食住などの家事技能の必要性は(授業後)	Q12介護で家族間での気遣いの必要性は(授業後)	Q13介護における生活時間の調整の必要性は(授業後)	Q14介護における家族間コミュニケーションの必要性は(授業後)	Q15介護サービスを利用すること(授業後)
Q1高齢者に関する学習への興味・関心はありますか(授業後)	Pearsonの相関係数	0.572(***)	0.388(0)	0.332(0)	0.415(***)	0.012	0.226	-0.009	-0.174	0.144	0.114	0.293	0.295	0.192	0.005	
	有意確率(両側)	0.000	0.006	0.032	0.006	0.94	0.156	0.953	0.27	0.363	0.473	0.07	0.059	0.306	0.977	
	N	42	42	42	42	42	41	42	42	42	42	42	42	42	42	
Q2高齢者について学習する意欲はありますか(授業後)	Pearsonの相関係数	0.672(***)	0.494(***)	0.154	0.163	0.245	0.271	0.162	-0.054	0.354(0)	0.285(0)	0.449(0)	0.342(0)	0.471(0)	0.203	
	有意確率(両側)	0.000	0.001	0.224	0.287	0.114	0.083	0.299	0.791	0.02	0.011	0.008	0.025	0.001	0.162	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q3家庭科の学習内容に役立ちたい程度はありますか(授業後)	Pearsonの相関係数	0.389(0)	0.494(***)	0.118	0.371(0)	0.063	0.161	0.2	-0.147	0.445(0)	0.570(***)	0.325(0)	0.668(***)	0.584(***)	0.343(0)	
	有意確率(両側)	0.016	0.001	0.248	0.014	0.689	0.309	0.199	0.345	0.003	0	0.039	0	0	0.024	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q4家庭科の衣食住に関する学習の重要性は(授業後)*	Pearsonの相関係数	0.332(0)	0.154	0.118	0.229	0.1	0.229	0.055	0.067	-0.016	0.212	0.244	0.279	0.074	0.087	
	有意確率(両側)	0.032	0.324	0.248	0.14	0.623	0.144	0.728	0.577	0.91	0.171	0.115	0.07	0.636	0.579	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q5家庭科の家族関係に関する学習の重要性は(授業後)*	Pearsonの相関係数	0.415(***)	0.163	0.371(0)	0.229	0.063	-0.119	0.01	-0.034	0.209	0.172	0.311(0)	0.209	0.265	0.262	
	有意確率(両側)	0.006	0.297	0.014	0.14	0.448	0.961	0.827	0.884	0.27	0.042	0.179	0.099	0.103	0.643	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q6介護する際の不安感の強さは(授業後)*	Pearsonの相関係数	0.012	0.245	0.063	0.1	-0.119	0.029	-0.154	0.117	0.117	-0.262	0.264	0.103	-0.002	0.079	
	有意確率(両側)	0.94	0.114	0.689	0.523	0.448	0.855	0.326	0.234	0.361	0.571	0.827	0.198	0.246	0.163	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q7介護できるだけ長く続けられる方法を(授業後)	Pearsonの相関係数	0.226	0.271	0.161	0.29	0.01	0.029	0.029	0.117	-0.262	0.264	0.103	-0.002	0.079	0.165	
	有意確率(両側)	0.156	0.083	0.209	0.144	0.961	0.855	0.827	0.469	0.093	0.091	0.515	0.99	0.618	0.298	
	N	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	
Q8介護を家族だけで済ませたい(授業後)	Pearsonの相関係数	-0.009	0.162	0.2	0.055	-0.024	-0.154	0.117	0.144	0.289	0.176	0.181	-0.051	0.062	0.039	
	有意確率(両側)	0.963	0.299	0.199	0.726	0.827	0.325	0.459	0.357	0.06	0.259	0.244	0.745	0.595	0.809	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q9介護する家族が負担が大きい(授業後)	Pearsonの相関係数	-0.174	-0.054	-0.147	0.087	-0.266	0.186	-0.262	0.144	-0.068	-0.112	-0.049	-0.089	-0.171	0.267	
	有意確率(両側)	0.27	0.731	0.345	0.577	0.064	0.234	0.093	0.357	0.653	0.474	0.754	0.572	0.272	0.064	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q10介護で家族が協力する大切さは(授業後)	Pearsonの相関係数	0.144	0.351(0)	0.415(***)	-0.018	0.172	0.143	0.264	0.289	-0.008	0.444(***)	0.335(0)	0.056(0)	0.572(***)	0.238	
	有意確率(両側)	0.363	0.02	0.003	0.91	0.27	0.361	0.091	0.06	0.663	0.003	0.028	0.06	0	0.125	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q11介護で衣食住などの家事技能の必要性は(授業後)	Pearsonの相関係数	0.114	0.361(0)	0.570(***)	0.212	0.311(0)	0.089	0.103	0.176	-0.112	0.444(***)	0.578(***)	0.500(***)	0.766(***)	0.270	
	有意確率(両側)	0.473	0.011	0	0.171	0.042	0.571	0.515	0.259	0.474	0.003	0	0.001	0	0.022	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q12介護で家族間での気遣いの必要性は(授業後)	Pearsonの相関係数	0.283	0.163(0)	0.371(0)	0.244	0.239	0.153	-0.002	0.181	-0.049	0.351(0)	0.578(***)	0.203	0.477(0)	0.364(0)	
	有意確率(両側)	0.003	0.033	0.115	0.179	0.327	0.99	0.244	0.754	0.023	0	0.001	0.192	0.001	0.915	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q13介護における生活時間の調整の必要性は(授業後)	Pearsonの相関係数	0.285	0.42(0)	0.581(***)	0.279	0.255	0.23	0.079	-0.051	-0.068	0.402(***)	0.500(***)	0.203	0.626(***)	0.256(0)	
	有意確率(両側)	0.009	0.025	0	0.07	0.099	0.139	0.618	0.745	0.572	0.006	0.001	0.192	0	0.919	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q14介護における家族間コミュニケーションの必要性は(授業後)	Pearsonの相関係数	0.162	0.471(***)	0.581(***)	0.074	0.252	0.181	0.165	0.052	-0.171	0.572(***)	0.758(***)	0.477(0)	0.626(***)	0.407(0)	
	有意確率(両側)	0.305	0.001	0	0.636	0.103	0.248	0.239	0.696	0.272	0	0	0.001	0	0.007	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	
Q15介護サービスを利用すること(授業後)	Pearsonの相関係数	0.005	0.203	0.403(0)	0.097	0.073	0.163	-0.256	0.039	0.267	0.239	0.237(0)	0.593(0)	0.36(0)	0.407(0)	
	有意確率(両側)	0.977	0.192	0.024	0.579	0.643	0.24	0.089	0.809	0.084	0.125	0.052	0.016	0.019	0.097	
	N	42	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	

表5: ポストテストの相関関係

Q1~15の全15項目について、授業前にQ2、5、9は相関が見られなかったが、授業後には、Q2、5に見られるようになった。1つの項目に関し、相関関係が増えた項目に注目するとQ1「高齢者に関する学習への興味・関心」は、Q4「家庭科の衣食住の家事技能に関する学習の重要性」、Q5「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」に相関関係が見られた。Q2「高齢者について学習する意欲」は、新たにQ3「家庭科の学習内容は高齢社会に役立つ程度」、Q10「介護で家族が協力する大切さ」、Q11「介護で衣食住などの家事技能の必要性」、Q12「介護で家族間での気遣いの必要性」、Q13「介護における生活時間の調整の必要性」、Q14「介護における家族間コミュニケーションの必要性」に相関関係が見られた。Q3「家庭科の学習内容は高齢社会に役立つ程度」は、新たにQ5「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」、Q11「介護で衣食住などの家事技能の必要性」、Q13「介護における生活時間の調整の必要性」、Q14「介護における家族間コミュニケーションの必要性」、Q15「介護サービス利用の必要性」と相関関係が見られた。

【3】 因果関係

①Q1「高齢者に関する学習への興味・関心」②Q2「高齢者について学習する意欲」③Q3「家庭科の学習内容は高齢社会に役立つ程度」に関して、どのような項目が要因となっているのか重回帰分析を用いて分析した。結果を以下に述べる。

①「高齢者に関する学習への興味・関心」について ($R^2=0.537$)

Q2「高齢者について学習する意欲」($\beta=0.615, p<0.001$)とQ5「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」($\beta=0.297, p<0.05$)が要因となっていた。すなわち、学習意欲、家庭科の家族関係に関する重要性が高いほど、高齢者に関する学習への興味・関心を喚起していた。

②「高齢者について学習する意欲」について ($R^2=0.561$)

Q14「介護における家族間コミュニケーションの必要性」($\beta=0.367, p<0.001$)が要因となっていた。すなわち、家族間のコミュニケーションの必要性を考えるほど、高齢者について学習する意欲を喚起する要因となっていた。

③「家庭科の学習内容の高齢社会への役立つ程度」について ($R^2=0.522$)

Q2「高齢者について学習する意欲」($\beta=0.302, p<0.05$)とQ13「介護における生活時間の調整の必要性」($\beta=0.565, p<0.001$)が要因となっていた。学習意欲、生活時間の調整の必要性が高いほど、家庭科の学習内容が高齢社会に役立つという意識を高める要因となっていた。ゆとりある介護には、7つの要素である「家族の協力」、「仕事の分担」、「家族間コミュニケーション」、「家族の気遣い」、「家事技能」、「介護サービスの利用」、「生活時間の調整」が必要であり、仕事の分担や家族の協力、コミュニケーションのためには生活時間の調整が必要不可欠である。このようなことから生活時間の調整が家庭科の学習内容が高齢社会に役立つという意識を高める要因になっていると考えられる。

2-3 自由記述による授業評価

この授業の評価として、生徒に自由記述で感想を書かせ、「知識・理解」、「情意」、「意欲」の3つの観点から表6にまとめ、以下に示した。

知識・理解 (28人)	できた・わかった	A: 介護の難しさ、大切さがよくわかった。など(13名) B: この劇で家族の大切さや協力することを学んだ。など(7名) C: 今回、授業を受けてゆとりある介護の大切さを知りました。劇などを通して、介護の大変さも知ることができたと思います。など(3名) D: 人任せにするんじゃなくて、やはり、家族との協力でコミュニケーションをとり、介護することが一番いいのではないかと思います。(1名) E: 家族への気遣いが大事だということがわかった。(1名) F: 家族だけの介護は難しかった。サービスを利用するためにもサービスについてよく知っておかなければいけないと思いました。(1名) G: 介護に対して色々な方向から考えることができた。(1名)	
	できなかった	H: 在宅介護などのことを劇で演じてみたらとても難しかった。(1名)	
情意 (10人)	楽しかった	A: 劇などをして、とても楽しく授業を受けることができた。など(6名) B: 劇ではストーリーを作るのが難しかったけど、楽しむことができました。(2名) C: 劇は、はずかしかったけど、授業は結構楽しかった。(2名)	
		意欲的	A: これから、自分たちが介護をしなければならぬので、今回の授業を活かしていこうと思います。など(5名) B: 介護についてあまり興味が無かったけれど、今回劇をしたり、授業を受けてみて、身近なことだと思ったのと、自分もいつか介護を受けるようになると思うので、自分たちに今できることをやろうと思った。など(4名) C: 高齢者にあまり興味が無くて、自分の親に介護が必要になった時、やりたくないと思っていたけど、授業を受けて自分だけ”やらない”じゃなくて家族で協力しなければいけないと思いました。など(3名) D: このようなことを目ごろはあまり考えることはなかったが家族のことなどを考えるきっかけになった。など(2名)
			意欲的でない

表6：授業全体の感想（自由記述）

生徒（n=42）の自由記述から「知識・理解」で肯定的な感想は27名、「情意」で肯定的な感想は10名、「意欲」で肯定的な感想は14名であった。

「知識・理解」に関して、A「介護の難しさ、大切さがよくわかった。」が最も多く13名であった。Bは、「この劇で家族の大切さや協力することを学んだ。」など“家族の協力”というキーワードを感想として書いており、7名であった。Cは、「今回、授業を受けてゆとりある介護の大切さを知りました。劇などを通して、介護の大変さも知ることができたと思います。」など“ゆとりある介護”という記述があり、3名であった。Dは、「人任せにするんじゃなくて、やはり、家族との協力でコミュニケーションをとり、介護することが一番いいのではないかと思います。」と“コミュニケーション”というキーワードがあり、1名であった。Eは、「家族への気遣いが大事だということがわかった。」と“家族への気遣い”というキーワードがあり、1名であった。Fは、「家族だけの介護は難しかった。サービスを利用するためにもサービスについてよく知っておかなければいけないと思いました。」と“サービスの利用”というキーワードがあり、1名であった。Gは、「介護に対して色々な方向から考えることができた。」と自分たちの実演及び他班を見た結果このように介護について多方面から考えられるようになったと考えられ、これは教材の効果であると考えられる。Hは、「在宅介護などのことを劇で演じてみたらとても難しかった。」は、1名であった。

「情意」に関して、A「劇などをして、とても楽しく授業を受けることができた。」が最も多く、6名であった。Bは、「劇ではストーリーを作るのが難しかったけど、楽しむことができました。」と劇の作成が難しかったことを示しており、劇作成時の手立てとして教師側からの劇の例の提示もしくは劇の実演が必要なのではないかと考えられる。C「劇が恥ずかしかったが授業は楽しかった。」は、2名であった。

「意欲」に関して、A「これから、自分たちが介護をしなければならないので、今回の授業を活かしていこうと思います。」が最も多く5名であった。Bは、「自分たちが今できることをやろうと思った。」など4名であった。Cは、「高齢者にあまり興味がなくて、自分の親に介護が必要になった時、やりたくないと思っていたけど、授業を受けて自分だけ”やらない”じゃなくて家族で協力しなければいけないと思いました。」など“家族の協力”というキーワードがあり、3名であった。Dは、「家族について考えるきっかけになった。」など2名であった。このようにロールプレイを通して、体験的に学習させることで介護しなければならないことを意識化させ、生活に活かすという意欲を喚起できた。また、自分たちができることをやるということは、遠い将来の生活ではなく、今の高校生段階での生活改善であり、今回目標とした家庭科と高齢者介護のリンクがここで確かめられた。

以上のことから「知識・理解」、「情意」、「意欲」に関して、生徒のほとんどの感想がこの授業を肯定する内容であった。また、ゆとりある介護の7つの要素であるのうち4つの“家族の協力”、“コミュニケーション”、“家族への気遣い”、“サービスの利用”が感想と書かれてあり、その必要性を理解させることができたのではないかと考えられる。「高齢者介護の問題点に気づかせ、より良い介護の方法について理解させる」を主眼とした授業は生徒の「知識・理解」、「情意」、「意欲」を高めることができた。以上のことからロールプレイを取り入れ、身近な問題として介護問題を具体的に理解させるために今回の授業で用いた指導案と教材は、高齢者介護問題の理解と解決のために有効であるとともに楽しく生徒に学習させることができる内容であったと考えられる。

3. まとめ

【1】プレテスト

【1】—1 平均値

- ①高かった項目：第1位「介護で家族が協力することの大切さ」(=3.36)
第2位「家庭科の衣食住に関する学習の重要性」(=3.28)
第3位「介護の不安感」(=3.16)
- ②低かった項目：第15位「介護は女性だけがするもの」(=1.74)
第14位「高齢者に関する学習への興味・関心」(=2.16)
第13位「高齢者について学習する意欲」(=2.26)

【1】—2 相関関係

- ①28項目間の相関関係が有意であった。

【1】—3 因果関係

- ①「高齢者に関する学習への興味・関心」は「高齢者について学習する意欲」、「介護で家族が協力することの大切さ」が要因となって高まった。
- ②「介護の不安感」は「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」が要因となって高まった。
- ③「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」は「介護に衣食住などの家事技能の必要性」が要因となって高まった。
- ④「介護サービス利用の必要性」は「介護における生活時間の調整の必要性」、「介護における家族間コミュニケーションの必要性」が要因となって高まった。

【2】プレ→ポストテストの平均点変化

- ①授業後高くなった項目：順位は関係ない
 - * 平均値が有意に高まった項目 12項目(15項目中)
 - * 「高齢者に関する学習への興味・関心」(プレ→ポスト：2.16→2.98 以下同様)
 - * 「高齢者について学習する意欲」(2.26→3.00)
 - * 「家庭科学習内容の高齢社会への役立ち度」(2.86→3.53)
 - * 「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」(2.81→3.40)
 - * 「介護をできるだけ長く続けられるような方法の重要性」(3.09→3.55)
 - * 「介護を家族だけですることの大切さ」(2.49→2.81)
 - * 「介護は女性だけがするもの」(1.74→1.44)
 - * 「介護で家族が協力することの大切さ」(3.36→3.79)
 - * 「介護に衣食住などの家事技能の必要性」(3.02→3.63)
 - * 「介護で家族間の気遣いの必要性」(2.93→3.53)
 - * 「介護における生活時間調整の必要性」(2.83→3.65)
 - * 「介護における家族間コミュニケーションの必要性」(3.12→3.65)
- ②授業後変化しなかった項目(平均の上昇はあったが有意ではなかった)
 - * 「家庭科の衣食住に関する学習の重要性」(3.28→3.30)
 - * 「介護の不安感」(3.16→3.21)

* 「介護サービス利用の必要性」(2.86→3.09)

【2】—1 相関関係

- ①プレ(28個)に比べ、ポスト(31個)は相関する項目が増えた。
- ②「高齢者について学習する意欲」、「家庭科の学習内容が高齢社会に役立つ程度」は、各々新たに5つの項目に相関が見られた。

【2】—2 因果関係

- ①「高齢者に関する学習への興味・関心」は「高齢者について学習する意欲」、「家庭科の家族関係に関する学習の重要性」が要因となって高まった。
- ②「高齢者について学習する意欲」は「介護における家族間コミュニケーションの必要性」が要因となって高まった。
- ③「家庭科の学習内容は高齢社会に役立つ程度」は「高齢者について学習する意欲」、「介護における生活時間の調整の必要性」が要因となって高まった。

【3】授業後の自由記述による授業評価

- ①42名の生徒の中で「知識・理解」に関する内容が28名、「情意」が10名、「意欲」が15名あった。
- ②ゆとりある介護に必要な7要素の中からは4つが感想として書かれてあった。

4. おわりに

高齢者介護問題についての具体的な理解と解決法を考えさせるために生徒の意識について予測し、指導案、教材を新規に作成し、実践した。授業前のプレテストにおいて、高齢者に関する学習の興味・関心が低かったにも関わらず、授業での生徒の反応は非常に積極的であった。女子に比べ、男子の平均点が低い傾向が見られたが、授業では男子も意欲的に参加していた。授業の流れは、スムーズでT&Sの受け答えから円滑に進み、ロールプレイングの際の感想「劇などをして、とても楽しく授業を受けることができた。」からも好意的な評価を得た。

また、プレに比べポストテストは、「家族の協力」、「家事技能」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」、「家族への気遣い」、「家族間のコミュニケーション」、「高齢者に関する学習への興味・関心」、「高齢者について学習する意欲」、「家庭科学習内容の高齢社会への役立ち度」の項目で有意に高くなった変化が見られた。しかし、「介護サービスの利用」については、平均値の上昇は見られたが有意ではなかった。また、生徒の自由記述からも「この劇で家族の大切さや協力することを学んだ」、「家族との協力でコミュニケーションをとり、介護することが一番いいのではないかと思います」、「家族への気遣いが大事だということがわかった」、「サービスを利用するためにもサービスについてよく知っておかなければいけないと思いました」などがあったことから、授業目標は達成された。このことから、高齢者介護問題に関するロールプレイ教材の学習は効果があったと判断し、指導案や教材の有用性が確かめられた。

超高齢社会を迎える日本において、高齢者に関する学習は、施設訪問による体験的な活動などに加え、ロールプレイによって、身近な問題として捉えさせ、それらを解決するた

めに自分たちができることを具体的に考えさせる必要がある。また、それらが家庭科の学習内容あると気づくことで、家族の一員としての責任感を育み、家庭科の学習に意欲的に取り組む姿勢が生まれるのではないかと考えられる。超高齢社会に対応するためにこのような視点を持った家庭科の学習が今後、必要であると考えられる。

参考文献

- 1) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイ教材開発」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p201-212 (2008)
- 2) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイの授業実践」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p213-227 (2008)